

有野台児童館で「ぼうさい探検隊」実施に協力

～ コロナ渦を経て再開。専用タブレットでデジタルマップ作成に挑戦しました ～

日本損害保険協会近畿支部（委員長：中村 哲・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社常務執行役員）では、6月10日（月）に有野台児童館（神戸市）で実施した専用タブレット端末による「ぼうさい探検隊」のデジタルマップ作りに近畿支部防災博士（※）の杉尾須美子さんと金月康子さんとともに参加しました。

有野台児童館では第12回コンクールから5年連続で模造紙による防災マップを作成してきましたが、コロナ渦でしばらく実施できず、久々の再開となりました。コロナ渦前は8月下旬の夏休み中の実施でしたが、近年の酷暑での実施は難しいとのことから、運動会の代休に実施することになりました。当日は3年生～6年生の児童20名が参加。まち探検出発前に茨木職員より、ぼうさい探検隊と地震についてクイズを出し「地震が起こるとどうなるのか」「地震が起きれば何に気をつければよいか」など、阪神淡路大震災当時の写真を交え説明しました。

まち探検は、3グループに分かれ、それぞれのコースにある避難場所・避難所・AED・電話ボックスなどを確認するミッションを出し、児童館の先生・近畿支部防災博士が分かれて引率し、発見した消火栓・防火水槽などについて近畿支部防災博士が説明しました。自治会からは「公園が一時避難所である看板を設置したので子どもたちにも知っておいてほしい」との意向があり併せて説明しました。

参加児童からは「普段気がつかないところまで教えてもらったので、それを活かして生活していこうと思う。暑かったけれど、消火栓と電話ボックスがいろいろなところにあることを知ることができて良かった。防災についてたくさん知ることができて楽しかった。」、先生からは「タブレット操作を理解するのに時間がかかったが、親切に教えていただき早めに配送していただけたので助かった。地図を作成するのは紙ベースより簡単にできた。時間が限られていたので発表会の段取りに時間が少し足りなかった。」、防災博士からは「児童館がきちんとスケジュールや内容をまとめていたので、初めての参加だったが勉強になった。地元の小学校区で実施できるよう学校へ働きかけたい。」との感想がありました。

当支部では、今後も防災博士や関係機関・団体等と連携し、各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。

※防災博士とは・・・近畿地区における安全・防災活動に対し、積極的に協力いただける方を「防災博士」として委嘱しており、近畿支部防災博士は地域のリーダーとして安全・防災活動に貢献しています。



出発前に地震についての話



まち歩きの様子



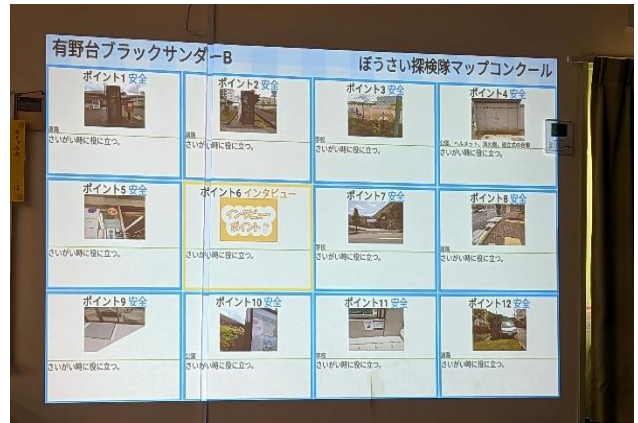
一時避難場所を確認



防火水槽を発見



防災探検隊東有野台チームのマップ



有野台ブラックサンダーBチームのマップ



有野台児童館防災探検隊 3班のマップ